

科目名	経済学 A Economics A	科目コード	10441
-----	----------------------	-------	-------

学科名・学年	全学科・5年（プログラム2年）
担当教員	佐藤 公俊（一般教育科）、松本 和明（長岡大学経済経営学部教授）
区分・単位数	履修単位科目・選択・1単位
開講時期・時間数	前期，30時間【内訳：講義30】
教科書	青才高志編著『現代経済の解説』御茶の水書房（2013）、 島田昌和著『渋沢栄一 社会企業家の先駆者』岩波新書【新赤版1319】（2011）
補助教材	プリント、ウェブ、プレゼンテーション
参考書	授業中に指示

【A. 科目の概要と関連性】

佐藤：日本の戦後の経済発展の蓄積様式と様々な経済問題をする。社会経済体制としての資本主義経済や市場経済と外部との関係を考察する。これは社会システムの、社会的必要労働を中心とした経済構造論の確立につとめることである。さらに、市民の自律・協働・連帯による新たな福祉国家体制を検討し、将来のあるべき社会体制を展望する。

松本：「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一の足跡・活動および理念・哲学を考察する。近代的な日本経済および企業システムの形成過程と現代的意義を明らかにしていきたい。現代さらには将来の経済および企業の方向性ないしあり方を見据えるうえで必要かつ不可欠な視点といえる。
○関連する科目：法学、社会学、歴史学Ⅰ（以上前年度履修）、経済学B（後期履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①現代の社会経済の基本構造についてのキーワード、概念、論理、理論を理解する。	20%	(a1)
②日本の経済・企業システムの形成過程と現状、今後の方向性・あり方および社会企業家のルーツとしての渋沢栄一の現代的意義を理解する。	30%	(a1)
③外部と関係する経済学の現代的社会的な意味を把握する。フェミニズムやジェンダー、福祉国家論などの意味を把握する。	50%	(a1)

【C. 履修上の注意】

新聞記事の経済欄、社会欄に目を通しておくこと。それとともに将来自分が社会人になった場合のことを想定して、自分がどのような社会的立場、ひいてはどのような世界的立場にあるかを考える習慣を身につけてもらいたい。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。
定期試験【60%】、レポート等【40%】

【E. 授業計画・内容】

● 前期

回	内容	備考
1	ガイダンス：福祉国家とグローバル化、福祉国家の再編	担当：佐藤
2	福祉国家論の開拓者：ウェット夫妻について	担当：佐藤
3	日本経済のあゆみ（1）：高度成長期	担当：佐藤
4	日本経済のあゆみ（2）：安定成長期	担当：佐藤
5	日本経済のあゆみ（3）：ゼロ成長期	担当：佐藤
6	渋沢栄一の足跡とヨーロッパ諸国での見聞	担当：松本
7	渋沢栄一と経済・財政および企業システムの確立	担当：松本
8	渋沢栄一の企業家活動①－金融業と製造業の勃興－	担当：松本
9	渋沢栄一の企業家活動②－インフラの整備－	担当：松本
10	渋沢栄一の経営理念と哲学および現代的意義	担当：松本
11	金融システムの変容と金融の再編	担当：佐藤
12	産業・経営システム、労働と格差	担当：佐藤
13	情報化と経済・社会の変容	担当：佐藤
14	資源・環境問題	担当：佐藤
—	前期末試験	試験時間：80分
15	試験解説と発展授業	担当：佐藤